

### 太陽

日	赤 經	赤 緯	視 直 徑	星 座
(30)	6時32分 6秒	北23度15分	31分31秒	ふ た ご
10	7時13分19秒	北22度23分	31分32秒	ふ た ご
20	7時53分52秒	北20度52分	31分33秒	ふ た ご
30	8時33分30秒	北18度47分	31分34秒	か に

月始めは巨蟹宮に在るが、二十三日から獅子宮に侵入する。日の出は少しづつ遅れて、前月三十日に四時四十六分であつたが、今月十日には四時五十一分、二十日には四時五十七分、三十日には五時五分となる。これと同時に日の入りも次第に早くなり、前月三十日に七時十五分であつたが、今月十日には七時十二分、二十日には七時九分、三十日には七時一分となる。又た朝や夕の薄明の時間は大體一時間四十分程である。

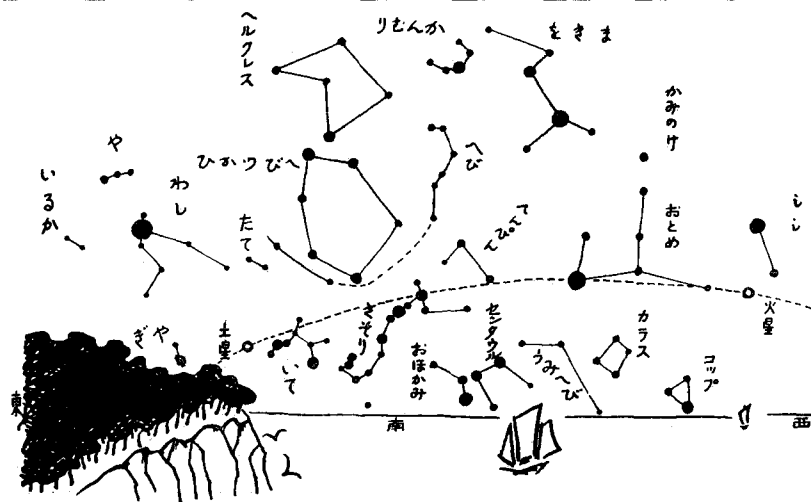
又た、六日には地球は遠日點を通過する。即ち太陽から最も遠去かる時であつて、此の日の太陽視直径は 31分30.7 秒であり實距離は約一億五千二百萬軒となつて、平均距離より約二百五十萬軒遠くなつてゐる。六日以後は少しづつ距離が近づくので、視直径も徐々に増して来る。

### 月

月の相	時 刻	視直径	星 座
下 弦	8日午前 8時52分	29分39秒	う を
新 月	15日午後 9時20分	32 12	ふ た ご
上 弦	22日午後 2時16分	32 11	を と め
満 月	29日午後 9時47分	30 12	や ぎ
遠地點通過	6日午後11時30分	29 34	う を
近地點通過	18日午後 9時24分	32 41	し し
昇交點通過	8日午前 4時 0分	29 39	う を
降交點通過	21日午前 3時42分	32 25	を と め

月の出は、一日午後八時三十八分、十一日午前零時四十四分、二十一日午前十一時七分、三十一日午後八時十七分。

月の入は、一日午前五時二分、十一日午後三時十七分、二十一日午後十時四十九分、三十一日午前六時十八分。



## 遊 星 界

**水 星** 月始めは太陽の向ふ側に居るので観望は不可能であるが、月半ばからは見得る様になる。其の頃は「かに」座のデルタ星の北2度計りの所にあつて順行中で、月末には「しし」座に入り、二十八日の宵にはレグルスと僅か半度程の距離で並ぶ(南方のが水星)、光度零等、視直径6秒。

**金 星** 暁の星で太陽より約一時間早やく東に出る。月始めは「うし」座アルデバランの東にあるが順行して、月末には「ふたご」の東端まで達する。出る時刻が次第におくれるから、月始め程観望には都合がよい。光度負三等、視直径十秒。

**火 星** 宵の星として、西天に見えるが、最早や観望の時期とは言へない。位置は「しし」と「おとめ」の境附近を順行。光度一等半。視直径五秒。

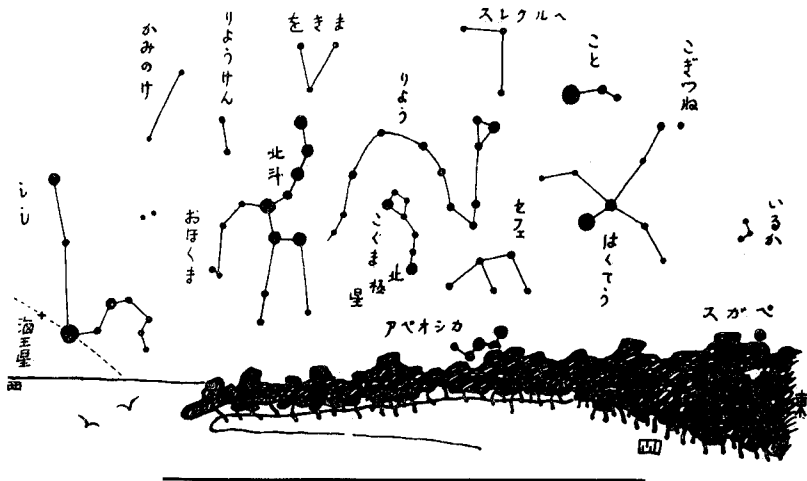
**木 星** 月始め僅かに「かに」の西部に見得るのみ。光度負一等余。視直径は二十九秒にて最も小さく、二十五日に太陽と合となる。

**土 星** 此の星の観望には今月が最もよい。「いて」の東部を逆行中で、光度0等、視直径十七秒で最大である。環の長径は四十一秒余。短径は十七秒。環の傾は今二十三度であるが、年々減少して1935年頃には傾は0度となり、環が一直線に見える様になる。小望遠鏡で環を見て楽しむのは今の内である。

**天 王 星** 「うを」座にありて夜半後の出現。光度六等。視直径三秒。

**海 王 星** 「しし」座レグルスの東にありて順行中。光度八等。視直径二秒。

**冥 王 星** 月半ばに太陽と合となるので、全然寫眞を撮る事も出来ない。



恒 星 界

夏休みも近づいて、山のキャンプへ、又は海水浴場へ、  
 何處へ行つてみても、なつかしく眺められるものは、  
 何んと言つても、宵の南天を壓して輝やく、  
 「さそり」の雄大な姿が、第一であらう。  
 春の星座の「しし」は既に、西の海面に近く、  
 これに續いて「おとめ」も亦、地下へといそぐ。  
 此等に代つて、今、東半分の天に擴がつてゐるのは、  
 親しみ深い夏の星々の集りである。  
 七夕でおなじみの、「こと」の織女と「わし」の牽牛とは、  
 天の川をはさんで、東の空に高く對峙し。  
 其の間には「はくてう」や「いるか」が居並んで、  
 愈々、夏になりましたよと言つてゐる。  
 北の地平線には、既に「カシオペア」や「ペガス」が、  
 顔を出し始めて、やがて、「アンドロメ」の、  
 彼の星霧の見え出すのも、そう遠くはない。  
 東天の土星は、遊星界の花形である。